

## 川崎支部便り 第85号 (2025年02月)

オープンで各自が主役：川崎支部

川崎支部支部長 山岸一雄 (執筆：山岸))

## 人生を豊かに (雑学のすすめ)

## 【はじめて、久しぶりで事故が多発?】

人事異動期は事故が多いようです。つまらぬミスも散見されます。事故を無くす手立てとして、3Hの原則があります。「はじめて」「ひさしぶり」「変更」。この3つは、ローマ字で書くと、すべてHからはじまります。このどれかの要素があると業務の流れが悪くなったり、事故が起きたりする可能性が高くなるのです。

例えば、人事異動直後は、「はじめて」この業務を担当するとか、「久しぶり」にこの仕事をするとかあるいは、やり方、人、開始時刻などが「変更」になったりしています。

始動時に、「私は、本日の業務では、3Hに該当しています。久しぶりに車両を操作します」など周りに申告をして、皆で補完体制をぜひともとって安全管理に万全を期して下さい。このほか、機関員は「この道は初めて通ります」など宣言し、その申告を聞いた消防車両。救急車両の同乗者は、全員で注意心を喚起し補完体制をとってください。

また、転入したばかりの人の場合、なかなか言いにくい場合もありますから、積極的に手を差し伸べて、「大丈夫ですか？わかりますか？」と温かく導いてあげることの極めて重要です。是非、「3Hの原則」を皆で意識してチームワークで乗り切ってください。

(消防署長の朝会の言葉50選 (永井秀明))

## 川崎点描：川崎支部活動拠点

## 【(マレーシア赴任で経験したこととは?)】 (松本 浩一 (1984年 機械工学科卒))

## (新しく開けた地「新庄」とは?)

川崎支部の山岸支部長は海外経験が豊富でたくさんの経験談があります。私の会社での海外の経験は、社外委員会メンバーとの海外視察と、今回投稿のマレーシアでの短期赴任の2回だけです。観光旅行とは違った経験ができたマレーシアでの様子を、お話しさせていただきます。

赴任期間は1995年9月から1996年7月までの約10ヶ月間。当時、私はゼネコンのハザマ(間組)の機電部に勤務していました。ハザマはマレーシアのクアラルンプールで当時世界一の高さとなるペトロナスツインタワーを施工していました。社内でも次は誰が行くのかという話は出ていましたが、私には関係ないと思っていました。1995年9月に妻と友人夫婦とでグアム島旅行も計画していたのですが、突如マレーシア赴任の話が回ってきました。残念でしたが、旅行はキャンセルし、マレーシアへ赴任しました。1990年に旅行でシンガポールへ行った時に、東南アジアの独特の匂いに馴染めなかった経験から、マレーシアでの生活への不安が大きのまま日本を飛び立ちました。生活面の不安も仕事の不安も抱えながらの海外勤務がスタートしました。

仕事の内容は超高層ビル建設に必要な仮設機械(タワークレーン、工事用エレベータ・リフト、コン

クリート圧送機械など)の**仮設計画**や**メンテナンス**でした。国内の現場経験もないままいきなり**英語**で現地スタッフに指示する立場に、最初は戸惑いました。それでも上司や先輩、同僚のおかげで何とか過ごすことが出来、現地スタッフもとても**快く受け入れて**くれました。

私は**高所恐怖症**ですが、現場初日には建設中のビルの外側にせり出したタワークレーンのポスト内の階段を上り、オペレータ室まで上がりました。(写真-1)

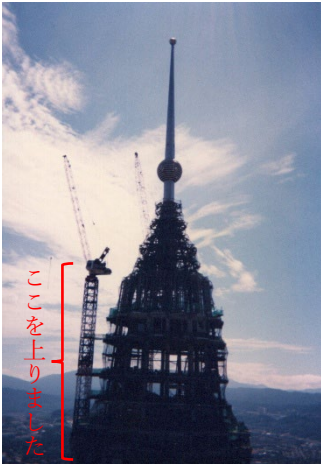


写真-1



写真-2

ポスト一番下が 70 階くらいに設置されていたと記憶していますので、**地上 300m位**かだと思います。ポストの外側は何もなくそのまま下がるので、今思えばよく上がったと思います。当時クアラルンプールで一番高い建物が写真の **KL タワー**でしたが、それを見下ろしたり(写真-2)、現場と KL タワーの間をヘリコプターが飛行する様子を見ることができました。1 ヶ月もすると高所も慣れて、1995 年の大晦日はタワークレーンの上で迎えました。(写真-3)



写真-3



写真-4



写真-5



写真-6



写真-7

マレーシアはマレー系、チャイニーズ系、インドネシア系、インド系と**多民族が共存**し、私の職場の現地スタッフもそれぞれの人種の人がありました。普段の観察では、彼らは日本人と違って**嘘をつく**ことが多く、会社の上司、先輩に聞いてはいましたが、驚くことが多かったです。それでもスタッフと和気あいあいと飲み会をしたり(写真-4)、休日に娯楽施設へ連れて行ってくれたり、自宅へ招いてくれたりと楽しませてくれました。(写真-6)(写真-7)彼はタワークレーンのオペレータと無線での交信で、タワークレーンの上

下げ、旋回の指示を出す仕事をしていました。

現地でのエピソードをいくつかご紹介します。

**エピソード-1**: 夕方の終礼でインド系現地スタッフと話をすると、**酒の臭い**がしました。「飲んだだろう」と問いただしたのですが、飲んでないと言い張りました。

**エピソード-2**： そんなスタッフ（写真-5）が結婚して**披露宴**に招かれました。彼らはお酒を飲まないはずで、披露宴にもお酒はありませんでした。黄緑色、ピンク色などの甘い飲み物しかありませんでしたが、和やかでなかなか**経験のできない場**を提供してくれました。

**エピソード-3**： チャイニーズ系の人たちは、何かが起こっても**非は自分がないと、人のせい**にします。なんだかんだ**言い訳**をします。（中近東でも多く見られると経験者から聞きました）

**エピソード-4**： 市内の公共交通機関のバスも危ないから、移動はタクシーの方がまだ安心だと言われていたのですが、**バスに乗ってみました**。そこで、**財布から紙幣と硬貨だけを抜き取られました**。

## 支部の活動

- ① **2025年02月15日（土）：第2回お茶とケーキで交流会（田園調布駅西口 13時50分集合）**  
参加費：川崎支部から1,000円を支払います。お茶やケーキ代は各自負担。
- ② **2025年3月22日（土）頃：お花見（場所は選定中）**  
参加費：無料。川崎支部から1,000円を支払います。

## ご存じですか

### 【侵略戦争の始まりを1928年（昭和3年）に設定したデタラメな論理とは？】

日本の侵略戦争を**1928年（昭和3年）1月1日と定めたのは裁く側の都合**でしかありません。東京裁判では、日本が**侵略戦争を始めた年**はいつなのか、という問題が**大きな焦点**になりました。これはつまり、**満州事変を侵略戦争とみなすか否か**という問題と関わることになります。そして結局、法廷は日本の侵略戦争の開始年月日を1928年（昭和3年）1月1日と決めました。

これは**非常に大きい問題**です。そもそもポツダム宣言は「**今次の戦争**」を終結することを受諾したものであり、当然、裁判の対象は「**今次の戦争**」でなくてはなりません。ところが法廷は、それより**はるか手前の1928年（昭和3年）にまで遡って始まり**としました。これはどう見ても**おかしい**のです。にも拘らず、そこまで時間を遡ったのには**理由**が有ります。その一つは、同年に**ケロッグ・ブリアン条約がパリで締結**されたことです。アメリカの国務長官**フランク・ケロッグ**とフランスの外務大臣**アリスティッド・ブリアン**の名前をとったこの条約は「**戦争放棄一般条約**」、通称「**不戦条約（パリ条約）**」と呼ばれるもので、第一次大戦の反省に立って**紛争解決の手段としての戦争を放棄し、平和的手段による解決**を謳っています。日本もこの条約に調印しています。

何を言いたいのでしょうか。要するに「**日本は不戦条約に背いた**」と言いたいがために、この年にまで遡って戦争開始日を定め、日本を裁こうとしたわけです。これは明らかに**ポツダム宣言に有る「今次の戦争」の範囲を超える**ものです。とともに、ケロッグ・ブリアン条約では確かに侵略戦争は悪いと言っていますが、**自衛戦争には触れていない**のです。国際連盟に加入していなかったアメリカがこの不戦条約を締結する時、国内で問題になりました。

その時ケロッグは公式の場で「この条約は侵略戦争を否定しているもので、**自営の戦争はそれに当たらない**」こと、および「何が自衛の戦争なのかは当事国がきめる」と説明しています。これを**自衛戦争の自己解釈権**といいます。

この点を指摘したのは**国際法の権威であった高柳賢三弁護士**（英米法専門の東大教授）であるが、当事者が自衛戦争かどうかを決めるのであれば、日本には不戦条約が締結された以後の戦争は「すべて自

衛のためのものであった」という権利があることになります。アメリカの弁護人が「現在トーマン大統領がソ連に対抗するため軍備をやっているが、それと同じことを日本がやったのが、**共同謀議の罪になるのはおかしい**ではないか」と言ったら。ウェブ裁判長は「あなたには自分の国に対する愛国心がないのか」と言った言語道断な場面もあったくらいです。

この様に実に**ナンセンスな裁判**だったのだが、**論理が破綻**しているにも拘らず、**一切無視**して東京裁判は進んでいきました。**常識の通用しない裁判、それが東京裁判の大きな特徴**であったと言っていいでしょう。

(渡部昇一から)

次号もお楽しみに。皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。

問合せ・連絡先：川崎支部 幹事長 松本浩一

TEL：090-9363-6082 E-mail：kawa\_matsu51@v00.itscom.net